

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2020年11月11日
【四半期会計期間】	第142期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）
【会社名】	東陽倉庫株式会社
【英訳名】	Toyo Logistics Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 武藤 正春
【本店の所在の場所】	名古屋市中村区名駅南二丁目6番17号
【電話番号】	(052)581-0251(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員管理本部長兼経理部長 渡邊 誠
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中村区名駅南二丁目6番17号
【電話番号】	(052)581-0251(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員管理本部長兼経理部長 渡邊 誠
【縦覧に供する場所】	東陽倉庫株式会社 東京営業本部 （東京都中央区日本橋茅場町三丁目7番6号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第141期 第2四半期 連結累計期間	第142期 第2四半期 連結累計期間	第141期
会計期間	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2019年4月1日 至2020年3月31日
営業収益 (千円)	15,081,836	13,476,591	29,661,645
経常利益 (千円)	908,021	758,886	1,611,055
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	535,286	533,089	1,040,526
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	488,939	741,821	906,318
純資産額 (千円)	19,580,508	20,405,586	19,859,495
総資産額 (千円)	42,125,729	42,338,774	41,320,928
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	14.02	13.99	27.25
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.5	48.2	48.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,234,030	1,505,620	2,841,218
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	638,860	540,007	1,675,756
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	362,369	837,507	704,971
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	4,763,459	6,066,114	4,263,299

回次	第141期 第2四半期 連結会計期間	第142期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年7月1日 至2019年9月30日	自2020年7月1日 至2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	7.75	6.94

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスク発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う経済活動の停滞に加え、緊急事態宣言の発出に伴う個人消費の急速な落ち込み等により厳しい状況となりました。緊急事態宣言の解除後、景気は徐々に持ち直しの動きがみられるものの、新規感染者数は高止まりの状況が続くなど、依然として厳しい状況が続いております。また、海外経済は、米中貿易摩擦が長期化するなか、多くの国や地域において、経済活動の再開と新型コロナウイルス感染症の抑制との両立を目指す局面となり、景気は徐々に回復の動きがみられるものの、欧米諸国を中心に新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループは、企業理念である『「もの」づくり、人の「くらし」を支える』を踏まえ、社会と人々の生活に役立つことを目指し、持続的成長を続けるため、運送体制と流通拠点の強化による3PL物流の推進、海外拠点の拡充を含めたグローバルな業務の強化、不動産賃貸料等の安定収入の拡大、を中心に営業力の強化を図るとともに、経営の効率化をより一層推進し、経費の節減に努めてまいりました。

また、当社グループは、持続的成長と中長期的な企業価値の向上に努め、営業収益の拡大を図るとともに、収益性及び経営効率の観点から、「売上高経常利益率5%」、「自己資本利益率5%」を目標値として設定しております。

セグメントごとの経営成績及び連結の経営成績は、次のとおりであります。

< 物流事業 >

保管料が増加したものの、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による影響を受け、輸出入貨物等を中心に荷役料、陸上運送料等が減少したことにより、営業収益は前年同四半期と比べ1,614百万円減少（10.9%）し、13,181百万円となりました。セグメント利益は賃借料等の費用が増加したことにより、前年同四半期と比べ157百万円減少（17.9%）し、722百万円となりました。

< 不動産事業 >

請負工事が増加したこと等により、営業収益は前年同四半期と比べ9百万円増加（3.2%）し、296百万円となりました。セグメント利益は前年同四半期と比べ2百万円増加（1.9%）し、123百万円となりました。

< 連結 >

上記の結果、営業収益は前年同四半期と比べ1,605百万円減少（10.6%）し、13,476百万円となりました。営業利益は前年同四半期と比べ237百万円減少（32.9%）し、484百万円となりました。経常利益は前年同四半期と比べ149百万円減少（16.4%）し、758百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期と比べ2百万円減少（0.4%）し、533百万円となりました。

連結の財政状態は、次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、受取手形及び営業未収入金が628百万円減少したものの、現金及び預金が1,802百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ1,017百万円増加（2.5%）し、42,338百万円となりました。

負債につきましては、支払手形及び営業未払金が235百万円、その他流動負債が208百万円それぞれ減少したものの、短期借入金が1,051百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ471百万円増加（2.2%）し、21,933百万円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金が380百万円、その他有価証券評価差額金が184百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ546百万円増加（2.7%）し、20,405百万円となりました。

当社グループは、持続的成長へ向け、中長期的な展望を踏まえ、積極的な設備投資を実施する方針であります。同時に、有利子負債残高、金利水準等に留意しながら安定的な財政状態を維持するよう努めてまいります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、6,066百万円となり、前年同四半期に比べ1,302百万円の増加となりました。

当第 2 四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動におけるキャッシュ・フローは、1,505百万円の収入となり、前年同四半期と比べ271百万円の収入増加となりました。主な要因は、売上債権が減少したことによるものであります。

投資活動におけるキャッシュ・フローは、540百万円の支出となり、前年同四半期と比べ98百万円の支出減少となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

財務活動におけるキャッシュ・フローは、837百万円の収入となり、前年同四半期と比べ475百万円の収入増加となりました。主な要因は、長期借入れによる収入が増加し、長期借入金の返済による支出が減少したことによるものであります。

当社グループは、引き続き営業収益の拡大により、営業活動によるキャッシュ・フローの増加を目指す方針であります。

資本の財源及び資金の流動性については、運転資金及び設備投資資金等の資金需要に対して必要な資金を確保するため、主に、営業活動によるキャッシュ・フロー及び金融機関からの長期借入れにより安定的かつ低コストにより調達し、資金の流動性の確保に努めております。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第 2 四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	39,324,953	39,324,953	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	39,324,953	39,324,953	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	39,324	-	3,412,524	-	2,134,557

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,960	5.13
ダイセー倉庫運輸株式会社	愛知県小牧市大字入鹿出新田新道900	1,800	4.71
株式会社中京銀行	名古屋市中区栄三丁目33番13号	1,432	3.75
伏見興産株式会社	名古屋市中区桜山町三丁目52	1,293	3.38
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	1,270	3.32
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	1,172	3.07
株式会社愛知銀行	名古屋市中区栄三丁目14番12号	1,045	2.73
中京テレビ放送株式会社	名古屋市中村区平池町四丁目60番11号	1,000	2.61
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	976	2.55
株式会社日本カストディ銀行(信託 口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	943	2.47
計	-	12,895	33.71

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,074,000 (相互保有株式) 普通株式 364,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,841,000	378,410	-
単元未満株式	普通株式 45,353	-	-
発行済株式総数	39,324,953	-	-
総株主の議決権	-	378,410	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東陽倉庫株式会社	名古屋市中村区名駅 南二丁目6番17号	1,074,000	-	1,074,000	2.73
(相互保有株式) 株式会社優和 SHIPPING	名古屋市中区大須一 丁目7番5号	364,600	-	364,600	0.93
計		1,438,600	-	1,438,600	3.66

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,263,299	6,066,114
受取手形及び営業未収入金	6,208,710	5,580,339
リース債権及びリース投資資産	97,227	97,362
原材料及び貯蔵品	105,039	80,839
その他	529,745	551,019
貸倒引当金	1,556	876
流動資産合計	11,202,466	12,374,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,964,183	9,952,398
土地	9,274,349	9,285,328
その他(純額)	1,583,392	1,403,652
有形固定資産合計	20,821,925	20,641,379
無形固定資産	300,750	279,461
投資その他の資産		
投資有価証券	6,200,062	6,355,621
リース債権及びリース投資資産	1,067,099	1,018,384
その他	1,731,104	1,671,575
貸倒引当金	2,480	2,448
投資その他の資産合計	8,995,785	9,043,133
固定資産合計	30,118,461	29,963,974
資産合計	41,320,928	42,338,774
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,901,522	1,665,940
短期借入金	3,172,032	4,223,832
未払法人税等	286,616	229,714
引当金	296,456	287,710
その他	1,237,129	1,028,876
流動負債合計	6,893,756	7,436,073
固定負債		
長期借入金	10,153,653	10,146,487
引当金	33,760	30,160
退職給付に係る負債	2,186,915	2,151,451
資産除去債務	117,157	118,198
その他	2,076,192	2,050,817
固定負債合計	14,567,677	14,497,113
負債合計	21,461,433	21,933,187
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,412,524	3,412,524
資本剰余金	2,191,028	2,194,072
利益剰余金	14,017,040	14,397,246
自己株式	259,406	305,297
株主資本合計	19,361,186	19,698,546
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	717,158	902,097
退職給付に係る調整累計額	218,849	195,056
その他の包括利益累計額合計	498,309	707,040
純資産合計	19,859,495	20,405,586
負債純資産合計	41,320,928	42,338,774

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業収益	15,081,836	13,476,591
営業原価	13,920,922	12,572,252
営業総利益	1,160,914	904,339
販売費及び一般管理費	438,342	419,693
営業利益	722,571	484,646
営業外収益		
受取利息	288	190
受取配当金	69,713	90,464
持分法による投資利益	106,328	41,662
助成金収入	3,920	140,509
その他	25,934	25,231
営業外収益合計	206,185	298,058
営業外費用		
支払利息	18,604	17,580
その他	2,131	6,237
営業外費用合計	20,736	23,817
経常利益	908,021	758,886
特別利益		
投資有価証券売却益	-	19,570
固定資産売却益	4,499	6,165
特別利益合計	4,499	25,735
特別損失		
固定資産除売却損	10,495	15,895
投資有価証券評価損	99,485	-
投資有価証券売却損	3,321	-
特別損失合計	113,302	15,895
税金等調整前四半期純利益	799,218	768,726
法人税、住民税及び事業税	304,586	274,898
法人税等調整額	40,654	39,261
法人税等合計	263,932	235,636
四半期純利益	535,286	533,089
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	535,286	533,089
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	65,482	184,938
退職給付に係る調整額	19,135	23,793
その他の包括利益合計	46,346	208,731
四半期包括利益	488,939	741,821
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	488,939	741,821

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	799,218	768,726
減価償却費	672,931	680,924
貸倒引当金の増減額(は減少)	94	712
(執行)役員退職引当金増減額(は減少)	-	3,600
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	16,919	171
受取利息及び受取配当金	70,002	90,655
支払利息	18,604	17,580
有形固定資産売却損益(は益)	584	3,312
有形固定資産除却損	2,684	5,398
投資有価証券売却損益(は益)	3,321	19,570
投資有価証券評価損益(は益)	99,485	-
持分法による投資損益(は益)	106,328	41,662
売上債権の増減額(は増加)	272,175	628,370
仕入債務の増減額(は減少)	88,370	235,581
その他	258,398	38,255
小計	1,327,723	1,667,822
利息及び配当金の受取額	167,674	188,327
利息の支払額	18,888	17,871
法人税等の支払額	245,160	332,657
法人税等の還付額	2,682	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,234,030	1,505,620
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	642,504	558,346
有形固定資産の売却による収入	7,408	6,955
無形固定資産の取得による支出	17,173	30,994
投資有価証券の取得による支出	1,554	31,622
投資有価証券の売却による収入	5,518	37,566
貸付金の回収による収入	9,446	3,161
その他	2	33,272
投資活動によるキャッシュ・フロー	638,860	540,007
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	300,000	200,000
長期借入れによる収入	2,000,000	2,300,000
長期借入金の返済による支出	1,730,703	1,455,366
自己株式の取得による支出	69	161
ファイナンス・リース債務の返済による支出	54,405	54,405
配当金の支払額	152,452	152,558
財務活動によるキャッシュ・フロー	362,369	837,507
現金及び現金同等物に係る換算差額	870	305
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	958,410	1,802,815
現金及び現金同等物の期首残高	3,805,049	4,263,299
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,763,459	6,066,114

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 受取手形裏書譲渡高及び電子記録債権譲渡高

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
受取手形裏書譲渡高及び 電子記録債権譲渡高	23,353千円	21,389千円

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費のうち主要な費目と金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
給料手当	179,841千円	187,813千円
退職給付費用	10,769	12,027
貸倒引当金繰入額	94	709

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
現金及び預金勘定	4,763,459千円	6,066,114千円
現金及び現金同等物	4,763,459	6,066,114

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	152,714	4.0	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月7日 取締役会	普通株式	152,713	4.0	2019年9月30日	2019年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	152,884	4.0	2020年3月31日	2020年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月9日 取締役会	普通株式	153,003	4.0	2020年9月30日	2020年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	物流事業	不動産事業	合計
営業収益			
外部顧客への営業収益	14,795,543	286,293	15,081,836
セグメント間の内部営業収益又は振替高	-	1,032	1,032
計	14,795,543	287,325	15,082,868
セグメント利益	879,881	121,537	1,001,418

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,001,418
全社費用及び全社営業外損益(注)	93,397
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	908,021

(注)全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	物流事業	不動産事業	合計
営業収益			
外部顧客への営業収益	13,181,299	295,291	13,476,591
セグメント間の内部営業収益又は振替高	-	1,227	1,227
計	13,181,299	296,518	13,477,818
セグメント利益	722,660	123,888	846,549

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	846,549
全社費用及び全社営業外損益(注)	87,662
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	758,886

(注)全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	14円02銭	13円99銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	535,286	533,089
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	535,286	533,089
普通株式の期中平均株式数(千株)	38,178	38,106

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....153,003千円

(ロ) 1株当たりの金額.....4円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年12月9日

(注) 2020年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月10日

東陽倉庫株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

名古屋事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福井 淳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 繁紀 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東陽倉庫株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東陽倉庫株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。